

3 | P-10

印度蛇木とレセルピンのDSS誘発大腸炎 マウスに対する影響について

東京大学・医学部・生体防御機能学¹⁾，同・老年病学²⁾

○洪 鉄¹⁾，金 光弼²⁾，趙 重文¹⁾，糸数七重¹⁾，宋 清華¹⁾，丁 宗鐵¹⁾

【目的】我々は印度蛇木によりヒト活性化Tリンパ球からの heat shock protein (HSP) 産生が誘導され，標的細胞障害活性が高まるなど，HSP 誘導活性が免疫反応を修飾する可能性が示唆されてきた¹⁾。そこで，今回，炎症に免疫が関与している Dextran sulfate sodium (DSS) 誘発大腸炎マウスに対して，印度蛇木およびその活性成分であるレセルピンについて検討を行ったので報告する。

【方法】実験動物は7週令の BALB/c 系雌性マウスを用いた。大腸炎マウスの作成には Takizawa ら方法に従い，5% DSS 水溶液を投与開始時より実験終了まで連日経口投与して作成した。印度蛇木はウチダより供与されたものを用いた。実験終了後に，末梢ヘモグロビン濃度を測定した。また，大腸の肛門から盲腸までの組織を取り出し，出血の有無を判断し，大腸全体の長さおよび総重量を測定した。さらに，HE 染色を行い，大腸炎の炎症強度の点数化を試みた。

【結果及び考察】印度蛇木生薬として 10g/kg/day の用量で毎日ゾンデを用いて経口投与し，また，その活性成分であるレセルピンを 25mg/kg/day の用量で腹腔内投与した。印度蛇木とレセルピンは DSS 誘発大腸炎マウスの体重減少を著明に抑制し，大腸炎の程度も著明に改善した。印度蛇木およびレセルピンは DSS 誘発大腸炎マウスの血中ヘモグロビン値の減少を改善した。大腸の出血の有無を判断した結果，印度蛇木およびレセルピンは出血率を著明に抑制し，大腸長さの短縮も改善した。印度蛇木およびレセルピンにより，DSS 誘発大腸炎モデルマウスの体重当りの脾臓重量の増加が有意に抑制された。

【結論】今回，DSS により惹起された大腸炎マウスにおいて，印度蛇木およびレセルピンには，大腸の炎症所見を著明に改善する効果を有することが示された。

1) 金 光弼 他： Biotherapy (14) 469-471, 2000